

平成29年度第4回文系チャレンジ講座を実施しました

今年度6回目となる第4回文系チャレンジ講座が、平成29年8月30日、本学教育学部の土居晴洋先生により、「私たちを取り巻く環境と防災教育」と題して行われました。

来学受講した大分南と玖珠美山及び遠隔配信された大分商業、臼杵、大分鶴崎、国東、高田、別府翔青、大分雄城台、中津南の10校159名の高校生が受講しました。

はじめに、「私たちを取り巻く環境と防災教育」についての説明がありました。東日本大震災、九州北部豪雨など、大規模災害の頻発により、防災・減災教育への関心が社会的に高まり、学校や地域において防災・減災教育の必要性が高まっていることを示されました。併せて身の回りの環境を注意深く観察することの必要性を具体的な事例を元に観察すべきポイントとともに話されました。



次に減災カルタや、学生と地域の人とのフィールドワークなど、これまで行なった防災・減災教育の様々な取り組みについて説明がありました。実際に地域に足を運び危険な場所を見つけることで、日頃から注意力を持って日常生活を送ることができるとのことでした。

また大分大学が立ち上げた、大分大学減災・復興デザイン教育研究センター（CERD）の防災・減災に対する教育の取り組みの説明もありました。これからの人と自然のつきあい方について、

2012年九州北部豪雨を例として説明されました。

先生は「これまで社会は利便性を重視して都市開発を行ってきたが、これからは地域の自然環境を認識した上で、持続可能性や安全性を重視していくことが大切である」と、受講生に強く訴えていました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（95%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（98%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（95%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（94%）、「映像はよく見えた」（84%）という結果が出ました。受講生からは「防災についてはいつも気をつけておかなければならないのだと改めて思った」、「住んでいる地域の地形などを知ることが防災にもつながることが分かった」、「日ごろからしっかり観察をしていきたい」、「ハザードマップ等を見ることができる情報サイトを利用しようと思う」といった感想が寄せられました。

